個人の市場価値の向上と生涯成長を支える

NEWS LETTER

株式会社人財アジア 定期ニュースレター

vol.38

2025 年 03 月

☐ 岡村の最近の注目ニュース　☐ ビジネス予備校近況リポート　☐ B-EAT 会活動報告　☐ What's up?

EAT ビジネス予備校　2025/03

第十期生の卒業式を無事終えた。

“１０年なんですね！” と言って頂いて、初めて時の経過を実感する。
毎年、というよりも毎日が、“何を伝えるか？”、“どう伝えるか？” の工夫と挑戦、
反省の連続で、まさに光陰矢の如しだ。

「目の前の事に没頭することも大事、時には冷静な目で見つめ直すことも大事」とみなさんに語ってきた助言に自らも従う。

・真っ先に、関連する方々への深い感謝だ。
生徒の皆さんは、自分を客観視する意義を理解し、苦しくても逃げずに努力してくれた。功成り名を遂げた先生が、熱い思いを持って手作りの資料で次世代に語り掛けてくださる姿には毎回心が震える。応援団のあたたかくも厳しい助言に、いつも背筋が伸びる。見放さずに残ってくれた社員への感謝は言葉にできない。
各先生の研修の現場に立ち会う幸運に恵まれていつも感じるのは、“今年の生徒はどんな様子なのか？” を想像し、言葉を合わせてくださる繊細さへの感謝だ。個別差の想像はネットを叩いても出てこず、次世代人財に不可欠の要件であるとつくづく思う。

日々頑張っている卒業生の皆さん、いまあなたは誰に感謝していますか？何かを想像していますか？

・気になるのが、みなさんが学びを持続しているかどうか。
この卒業シーズンになると過去の卒業生で振り返りのメールをくれる人がいる。若干名だ。過去の経験則では、昇進や結婚など良い知らせは後から、苦しさや困難はすぐにというのが連絡をくれるパターンなので、便りの無いのは良い便りということなんだろう。卒業課題の “自分が燃え続けるための仕組み作り” を見ると、学び続けられそうかどうか大体予測がつく。自分で学んでは後輩・同僚に教えたり、身近な誰かと定期的に対話したり、周りを上手に巻き込んでいる人は学びの持続性が高い。クリストフ・クッチャー氏の引用したアフリカの諺 “早く行きたければ一人で行け。遠くまで行きたければ皆で行け。” をまさに思い出す。

向上心の強い皆さん、自らの学びを仲間と分け合っていますか？

・人に教えるためには、私も成長しなければならない。
EAT ビジネス予備校をデザインした時には、生徒の皆さん “から” の学びの深さに思いが至っていなかった。本音で向き合えば、本音で返してくれる。とことん悩んで再度自身の答を返すと、更なる思いを知らせてくれる。卒業生が既に何名か講義をしてくださるようになったのも嬉しいが、外形上の成否に関わらず、異なる人財との対話から生まれる価値を私自身が享受させていただいている。“そんな考え方もあるね！”、“わー決め付けてしまっていてごめんなさい” 等々感謝と自省の日々だ。グローバル企業では幹部になるほど高い値段のコーチがつく。“何かを成し遂げたから偉くなったが、それであなたのすべてが肯定されたわけではない。自律せよ。” とのメッセージと受け止めていた。

責任感の強い皆さん、部下や後輩から日々何を学んでいますか？

自身の学びという意味では、年を経て変質・進化した面もある。人財アジアを設立したときに、アカデミズムとは一線を画し、リアルな事例から学びを抽出するとメモ書きしている。しかし昨年は、弊社顧問との厳しい壁打ちを経て、講師力養成講座を構想してから、実践にあたっては青山学院大学文学部の伊達教授と初タグを組んだ。参加者に向かって「“今” という “暫定性” を意識して主張しているか？」という質問にはっとさせられた方も多かったように思う。我々が、時間や空間など多くの制約の中で生きていることを再認識させられる簡潔な言葉だ。私の周りには幸いにして論理と実践のバランス感覚に優れた方が多いが、思い先行の私は１０数年を経てやっと一つの言葉にいくつかの事例が紐付けられるようになり、禅問答に向き合う入口にたった。

本日寄稿くださった伊達教授の突き詰めて考える姿勢をリスペクトしている。彼もまたリアルな現場で実践に紐付ける難しさと努力の大切さを理解してくれているはずだ。私は高校の総合的探究教育が効果を発揮し始めていると感じている。時には意見は異なれど、長い付き合いが続いている理由である。

注) この隔月ニュースの内容をさらに充実させ、発信していきたいです。メールアドレス等の変更は総務企画までお知らせくださいね！　（EAT 代表　岡村 進）

教育制度の目標と方法の齟齬：目先の解決策と長期の影響

青山学院大学文学部教授
大学図書館長
（前文学部長）
伊達 直之　氏

EAT には場違いな大学入試の話題で始めるが、日本の将来に関わる教育制度を考える一助にして欲しい。

つい先頃、文科省は全ての大学に、今後は入学試験で出題した「問題」と「正答」、記述式でも「出題意図」と「模範回答例」をセットで公表せよと求めた。実行しなければ大学補助金の減額を振りかざしてのディールだ。
様々な立場からの「なぜ？」が浮かぶ。特に受験生にとって、教育の見地からどんな意味があるのか。

試験される側を一方的な弱者にしてはならない。人として対等な関係を確保する見地から、出題側に適切な情報提供を義務づけるのは、確かに昨今の国際的な人権保証の動向だ。日本の中・高校生にとっては、問題の意図から学部の目的や必要な能力を知り、自らのキャリアを再検討するプロセスは、価値ある経験とも言える。

しかし小論文に「出題意図」に加えて「模範回答例」のセット提示は、選抜試験の本質を忘れた過剰サービスではないか。そういえば数年前「大学入試改革」が大失敗した理由の一つは、居住地域による英語資格試験受験の機会格差。文科省は同じ轍を避け、受験者だれもが設問の意図を誤解せず、平等なスタート地点から回答に進める、公平性担保のレールを敷いたとアリバイ作りしたいのか。(松岡亮二『教育論の新常識 - 格差・学力・政策・未来』(1921) では、日本の歴代教育改革で、実施後の体系的な成果測定や評価の実証的調査が想定もされていなかったと知り衝撃だったが。)

だが「出題意図」と「模範回答例」を並べて提示すれば、受験現場では「模範回答例」をパターン分析し、「減点ができない」、「負けない型」を考案し、生徒たちに反復練習をさせるだろう。
将来を担う世代の教育の問題として、自分事に考えて欲しい。大学への入り口で、特定の効率よい思考の型を押しつければ、生徒はその枠内で「正解」の存在を信じ、さらに正解自体への依存心を強化する。社会が求めた教育改革、自由な発想や個性の発露、思考力の育成を謳う教育への逆行だ。

大学から中学、高校を訪問した折、父母たちから危惧する相談も受けた。子供が模擬テストの「設問の意味」が理解できないという。字面で文章を追うので、代名詞や指示名詞の正確な対象を意識すると、急に一つ一つが不安になる。逆に流し読みの直感で決めつけた自分流の理解に固執し進めない子もいる。設問をクリアすると、性急に正解を求める。

行間を認識しない。「読字」文化の極北だろうか。学校教科書からは文芸作品が消えた。消えたのは、曖昧で分かり切れない（正解がない）ことが前提の、人間的な文章だ。行間を汲み、文字列からイメージとリアルな身体感覚を想像・再現する絶好のドリルだった。
今、生徒のコミュニケーション環境は、SNS のデジタルなプラットフォームだ。自由研究、プレゼンでは会話レベルも協働とされ、タイパで過度に単純化された「それらしさ」のストーリーが共感を呼ぶ。

悪意ある「それらしさ」と、「事実」や「信頼に足る考え」とを識別するリテラシーには、信頼できる知識と情報源に加えて、問題発見と批判能力を創造につなげる地頭の力が必要だ。だが現実には、兵庫県知事選ではどれがフェイク情報なのかの説明に、反発する学生も出た。似た問題を抱える米国では、デジタルデバイスの普及が、子供たちの読字能力や理解力の低下と関係するという調査もある (Maryanne Wolf. Reader, Come Home: The Reading Brain in a Digital World. 邦題『デジタルで読む脳、紙で読む脳』)。

日本の小学校教科書のデジタル化には、教育効果や安全性に十分な根拠があるのか。「それらしさ」の創作は、今後社会生活に限無く浸透する生成系 AI が最も得意な領域でもある。AI との協働の仕方は、今の私たち自身の切迫した問題だが、私たちには今教育を受けている次の世代、さらにその次の世代の教育にも責務があると考えたい。

What's up?

宇津井 祐
Yu Utsui

EAT ビジネス予備校
福岡クラス（6 期生）
トヨタ自動車九州㈱

「郵便局か銀行に預けんとダメよ」 祖母がお年玉をくれた時の財テク指南です。
令和の世に金利のある時代がまたやって来ると思うと蘇る懐かしい記憶です。また来る、と言えば最近は旅行先で現地の年長者と話すのが楽しいです、ほぼつきあってくれるし話が完結してるのが良い。翁が教えてくれる巷の風情と昨今世界を駆け巡る時事を重ねると歴史は繰り返すのだと日々実感！ EAT で着火した心の種火を燃やし続ける為にもアンテナを高くし未来予想しながらまた来る新年度を迎えたいと思います。

EAT 株式会社人財アジア
〒100-0005 東京都 千代田区丸の内 1-8-3 丸の内トラストタワー本館 20 階
［TEL］03-6300-6460　［Mail］info@eat-star.asia

特別寄稿および What' s up?　に掲載して下さる方を募集しています。ご希望の方は事務局までお問合わせのほど、お願い致します。